



# 世界のワイン産業



株式会社 日本経済研究所

常務執行役員

地域本部 上席研究主幹 佐藤 淳

世界のワイン産業は順調に拡大している。牽引しているのは、フランスとイタリアである。フランスの強みは伝統的なランク付けに伴う競争環境である。伝統は合理性を内在しているケースが多く、その見極めが地域の活性化にとって重要である。

世界のワイン産業は順調に規模を拡大している。1990年から2012年にかけて、輸出金額は4倍となった(図1、年平均7%成長)。この間、我が国の全産業輸出は1.5倍(年平均2%成長)に留まっている。伝統産業であるワインがどうして成長しているのか、その要因を探った。

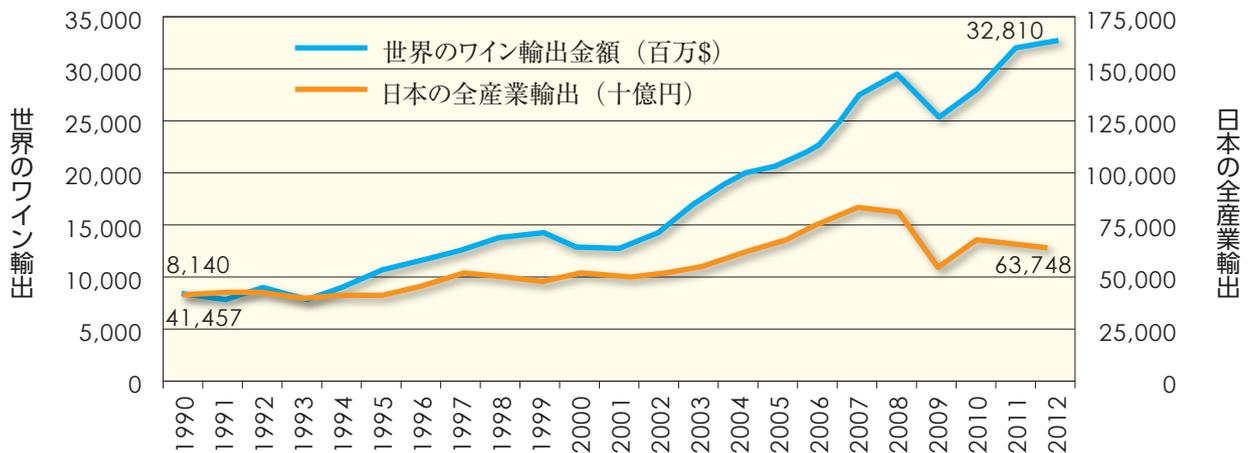
この間のワイン世界輸出を牽引したのは、フランスとイタリアである(図2)。両国で輸出伸長の半分弱を占める。両国の輸出単価推移を図3に示す。フランスの輸出単価は6.4\$/kgと、イタリア(2.8\$/kg)の倍以上に高い。イタリアが90年代以降、価格差を縮めているものの、両国の差は、フランスはブランド化に成功し、イタリアはそうでもないところにある。両国には似たような地理的表示制度がある。どうして、両国の差が生まれたのか。それは、ランキングの強弱とみられる。

フランスワインには幾つものランキングが存在

する。複雑ではあるが、ランキングの存在が、ブランド化と高価格を実現している。フランスワインのランキングは、1855年のナポレオン三世によるボルドー(メドック地区)の格付に始まり、他のボルドー地区や、ブルゴーニュの格付に広がり、今日では、米国の著名なワイン評論家であるパーカー等によるランキングが成されている。これらは、基本的に生産者に対する評価である<sup>1</sup>。ランキングは競争を喚起する。伝統的なボルドーでも、新大陸に対抗するために、最新の技術導入を進めている。既にフランスが誇るテロワール(地域属性)よりも技術が価格を左右する時代となっている。

仏伊両国で制度化されている地理的表示は、畑の所在等を示すものである。フランスのシステムは、公共による地理的表示を基本インフラに、民間によるランキングが付加されたものといえる。

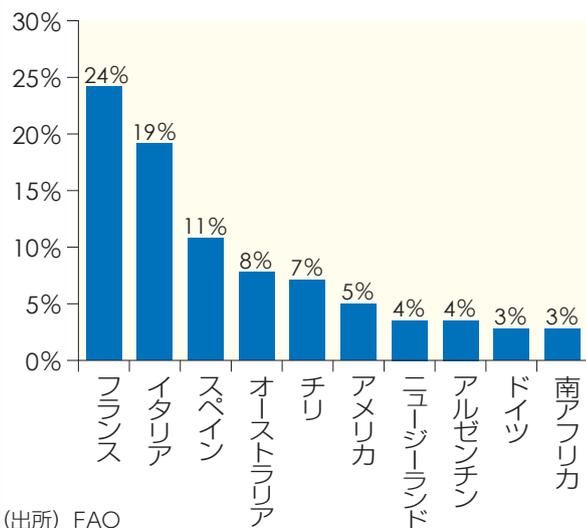
■図1 世界のワイン輸出



(出所) FAO、貿易統計

1 ブルゴーニュの格付けは畑ベースだが、評価は生産者による。

■図2 1990 - 2012 世界のワイン輸出成長寄与率



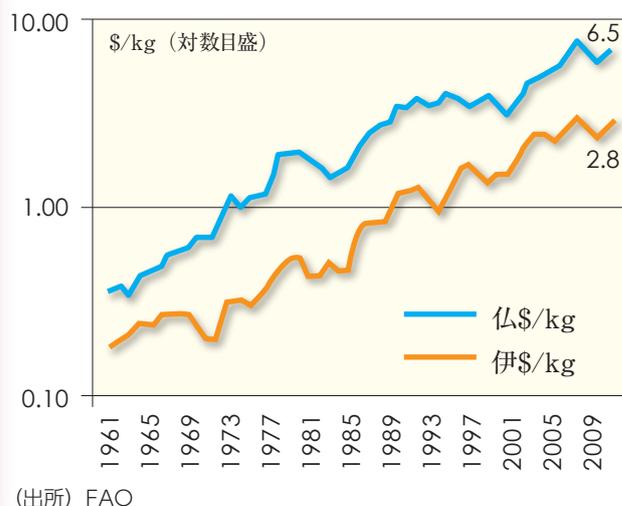
一方、イタリアには、近年まで、ランキングが不在に近かった。それには長い歴史的な背景がある。ローマ帝国の崩壊後、イタリアの都市国家は、ボルドー等のフランスワイン貿易で財を成した。その間、細々と貧しい田舎や修道院でワインは作られてはいたが、イタリアにおいて銘醸ワインが醸造されるのは、ごく最近のことである。我が国同様、第二次大戦で敗退したイタリアは、敗戦後の食料不足もあり、ワインが嗜好品として位置づけられたのは、1980-90年代になってからである。

1963年にフランスの制度に近い地理的表示制度を定めたものの、発展途上にあったイタリアでは、却って障害となる面があった。例えば、新しいチャレンジ～フランス・ブドウ種や新醸造法の導入～をすると、非伝統酒として、単なるテーブルワインとされた。

このあたりの事情は、課税（検査）を嫌った高品質の地酒が2級酒とされた日本に少し似ている。その後、この種の規制が改善されたり、民間による格付けが進展したりしたことによって、イタリアワインのブランド化が進んだ。足下では、伝統種の復活がみられつつあり、地域や伝統と品質がリンクした、理想的な進展が生じつつある。

フランスとイタリアが供給者の代表とすれば、消費者の代表はアメリカである。一人当たり消費では仏伊に届かないものの、全体の消費量では上回る(2013)。アメリカにもワイン生産者は多く、カリフォルニアのナパバレーのように、マイケルポーターがクラスターの典型として掲げたケースもある。大規模生産者から小規模生産者まで、米

■図3 仏伊ワイン輸出単価



国には7千を超えるワイナリーが存在する。

消費面でアメリカを特徴づけるのは、生産者と消費者をつなぐ、流通の規制が厳しいことである。禁酒法の時代すらあった米国では、アルコールの負の側面に対する考え方が厳しく、社会的コストを警戒して、流通の規制が強い。あのアマゾンですら酒類販売に成功してないし、未だ州政府による専売も残る(18州)。少しずつ緩和されてきているが、各州における流通規制はまだまだ厳格である。この点、2003年に原則自由化された我が国とは大いに異なる。当時の政権は米国を手本に自由化を進めた印象があったが、筆者の勘違いだったようだ。ちなみに、酒販が自由化された我が国では、大型店に販売がシフトし、コストダウンで消費量が増えるかと思いきや、情報の非対称性が増して、もどき酒が増え、結果として市場が縮小する負のサイクルが発生した。

伝統産業であるワインの発展は、伝統を踏まえて技術革新を進めるフランスに象徴される。仏ワインの伝統とは品質改善といわんばかりである。一方、フランスのブドウを導入しキャッチアップしたイタリアは伝統種への回帰もみられるなど、伝統は多様性の担保でもある。自由の国アメリカにおける厳格な流通規制もまた伝統である。安易に自由化した我が国は、市場の失敗に苦しんでいる。我が国は伝統を情緒性によって解釈しがちである。しかし発展を続ける世界のワイン産業の示唆は、伝統の持つ合理性の重要さである。伝統が有する合理性の冷静な解析が、地域産業の発展に不可欠である。